

22議委第40号
平成22年8月31日

南会津町議会議長 渡部康吉 様

文教厚生委員長 渡部 優

所管事務調査報告書

所管事務調査について、調査した結果とその内容を下記のとおり報告いたします。

記

1. 調査日 平成22年6月16日(水) 午後2時から午後4時15分
2. 目的 (1) 県立南会津病院を訪問し、診療体制の現状と課題を調査
(2) 町立統合保育所の建設進捗状況の確認
3. 調査日程 (1) 県立南会津病院 14:00～15:10
(2) 町立統合保育所 15:20～16:10
4. 参加者 委員
渡部 優・菅家幸弘・山内 政・星 光久・高野精一・湯田 哲・
五十嵐 司
事務局(湯田昌伸)
5. 調査結果内容
(1) 県立南会津病院(対応者:佐竹院長外4名)
 - ア) 県の県立病院改革プランにより取り組みを行っている。主な内容は、良質な医療サービスの提供、収益確保とコスト削減による健全な病院経営、地域との連携・共生、医療提供体制の充実、職員の資質向上と人材育成。
 - イ) 現在の病床数は100床で、常勤医師は12名である。前回調査後の動きとしては、精神科の診療を月1回実施している。尚6月より月2回実施する予定。また人工透析は増床工事を行い、本年4月から7台増え、19台で実施している。
 - ウ) 本病院の年間の赤字額は20年度決算で5億6,344万6千円。

- エ) 看護体制は7（患者）：1（看護師）を維持している。ただ本病院は比較的若い看護師が多く、結婚・出産・育児で長期休暇が発生し、その補充がなかなか出来ない状況がある。夜勤での対応を含めると現在10：1の程度の体制になっているのが現実だ。
- オ) 民間が、病棟管理、レセプト管理、病院内清掃、食事の賄い等を行っている。
- カ) 本病院は民間開業医からの紹介料は徴収していない。紹介状を書いた医院では診療報酬に反映されるものと考えている。
- キ) 南会津町は中学3年生まで医療費の無料化に取り組むが病院側としてはどう考えるかの問いに、若干夜間診療が増えるかもしれないが、高学年になると病院にかかるのが減少するので、そんなに支障はないと考える。
- ク) 産婦人科は常勤2名を基本としていて、その体制が整わない中では出産は取り扱わない方針だ。
- ケ) 小児科医は現在研修中の医師がいるので、来年は確保できるものと考えている。
- コ) 開業医との連携は、どのくらい顔の見える関係を築けるかにかかっているものと思う。「地域医療を考える会」等の仲立ちがあれば、県立病院医師も入っていけるのでは。（院長談）
- サ) カルテの電子化は、来年度に向けて動いている。会津若松市内の基幹病院との連携を図る。

<佐竹院長からの提案>

看護師や理学療養士を養成するため、町にその奨学金制度を作してほしい。地元の看護師が一番良い。

(2) 町立統合保育所の建設進捗状況の確認（施工担当者から説明）

- ア) 現在進捗率55%
- イ) 木材がふんだんに使用されている。
- ウ) 屋根がソーラーシステムと一体になっている。景観が良好であった。その分メンテナンスなどのランニングコストが大きいと思われた。

6. 所感

毎年医療施設を調査しているが、課題は大きくは変更ないことがわかる。

今回院長先生から町への具体的な提案があり、その可能性を町当局へ問いかける必要がある。さらには開業医との連携でもヒントをいただいたことで、働きかけのタイミングを図っていくべきだ。町としての考えをきちんと確認してから議会（委員会）として動くべきと考える。むやみに議会だけが動いても結果は出ないだろう。

以上